

進路「夢」実現



進路だより 第4号
令和3年3月1日発行
大笹生支援学校キャリア支援部

校長あいさつ



日頃より、本校の進路指導への御理解と御協力をいただき感謝を申し上げます。

今年度は、コロナ禍の中でもできることを考えながら取り組んできた一年でした。特に、太陽祭や外部での販売会が中止になったことで、作業製品を販売する機会が大幅に減少しました。しかし、このような時だからこそできたことがありました。中学部では、注文販売を企画し、注文した教職員一人一人に作業製品を届けました。また高等部では、体育館で高等部作業製品販売会を開催し、在校生や保護者の方をお迎えしました。多くの保護者の方に参加していただき、生徒たちが対面販売をしました。お客様になった小学部の児童たちにとっては、やさしく案内してくれた先輩たちは憧れの存在になったようです。

小学部24名、中学部19名、高等部34名の卒業生は、それぞれの「夢」を持って次のステージへ向かって行きます。児童生徒の「夢」の実現のために、今後ともよろしく願いいたします。

◆本年度は、小学部24名、中学部19名、高等部34名の児童生徒がそれぞれの学部を卒業します。

高等部卒業生もほぼ進路先が決まり、それぞれ社会人として巣立ちます。令和2年度各学部卒業生の進路先状況は、以下の通りです。

●小学部卒業生 24名

進学（24）	本校中学部進学予定（24）
--------	---------------

●中学部卒業生 19名

進学（19）	本校高等部進学希望（19）
--------	---------------

●高等部卒業生 34名

分類	進路先区分	人数	進路予定先
就職	一般就職	10名	・有限会社吉川屋（2名） ・株式会社大創産業 ダイソー コープ保原店 ・株式会社いちい 鎌田店 ・株式会社ヨークベニマル 吉倉店 ・株式会社ヨークベニマル 鎌田店（2名） ・社会福祉法人北信福社会 ハッピー愛ランド おおもり ・ヤマト運輸株式会社 福島西支店 ・らあめんたけや

障害者総合支援法に基づく福祉サービス事業所	就労継続支援B型事業所	15名	<ul style="list-style-type: none"> 一般社団法人シャローム福祉会 まちなか夢工房 特定非営利活動法人 晴心福祉会 ヴィレッジ 株式会社ラポール泉 アットホーム(2名) 一般社団法人つくし ジョブ・サポート笑心 社会福祉法人しのぶ福祉会 あづま授産所(2名) 合同会社アールプラス 就労継続支援B型事業所 アールプラスワーク 社会福祉法人大生福祉会 大生信夫の里 社会福祉法人あぶくま福祉会 就労継続支援B型事業所 ほどはら授産所 NPO法人咲 就労継続支援B型事業所つぼみ (2名) 就労者継続支援事業所 ある夢の杜 ハイジ NPO法人えんじょいらいふ福祉会 就労継続支援B型事業所 アートさをり 社会福祉法人ひろせ福祉会 工房ひろせ
	生活介護事業所 (併用含)	6名	<ul style="list-style-type: none"> 社会福祉法人大生福祉会 大生信夫の里(2名) 社会福祉法人つばさ福祉会 新おおぞらの夢(2名) 社会福祉法人つばさ福祉会 おおぞらの夢 社会福祉法人陽光会 鎌田障がい福祉センターきらら(2名) 社会福祉法人陽光会 大萱荘 福島医療生活協同組合 デイサービスセンターひだまり
その他	在宅	2名	<ul style="list-style-type: none"> 家事手伝い 藤田病院 訪問医療
	未定	1名	



新規福祉サービス事業所情報



施設事業所名	場所	支援サービス・仕事内容
多機能型すずらん工房 ★就労継続支援B型すずらんベーカリー	伊達市梁川町	就労継続支援A型、就労継続支援B型 ※就労移行支援事業 休止 <A型> 飲食店、手作り雑貨、衣類販売 等 <B型> パン、他焼菓子の製造販売 ポスティング作業、内職作業 等
ワークスペースとみの	伊達市梁川町	就労継続支援B型 建物のクリーニング作業、とみのホーム洗濯物 たたみ 等
指定障害福祉サービス事業所 チョコおやま	福島市御山	就労継続支援B型 リサイクルショップ補助業務 等
FLAT福島	福島市置賜町	就労継続支援B型 カフェの接客、農作業 等

高等部卒業生から

高等部3年 S.D.

私は、高等部卒業後「株式会社ダイソー」に就職することになりました。4回の実習と特別実習をさせていただきました。実習担当の指導員の方はとても優しく、私が作業内容を理解できず困っている時、丁寧に教えてくださいました。指導員の方のおかげで、少しずつスムーズに作業に取り組むことができるようになりました。私は、この経験から「株式会社ダイソー」で働きたいと強く思いました。私が主に担当する仕事は、商品の品出しや商品の前出し、荷受け等の仕事です。私は、手先の器用さに自信があるため、自分にこの仕事が向いていると感じたことも働きたいと思った理由です。社会人になったら、今まで以上に元気な挨拶を忘れずに、一日一日を大切に、一生懸命働きたいと思います。

高等部3年 O.S.

私は高等部卒業後、「社会福祉法人しのぶ福祉会あづま授産所」で働きます。あづま授産所では2回実習をしました。私が取り組んだ作業は、部品の組み立て作業と野菜加工作業です。特に、野菜加工をがんばりました。野菜加工では、主に人参の皮むきとヘタを切る作業に取り組みました。皮をピーラーでむくのは慣れるまで難しかったです。また、立ち仕事だったので、足が痛くなりました。立ち仕事は体力が必要だと思い、3年生では朝のトレーニングで2周走ることをがんばりました。1年生の頃は1周も走ることができませんでしたが、続けて取り組んだことで2周走ることができるようになりました。もう一つがんばったことは、挨拶です。自分から挨拶ができるように意識して生活をしました。社会人になっても自分から挨拶ができるように続けていきたいです。

フレッシュ就労体験を終えて

高等部1年 W.N.

私は、café 桑の実さんで1月25日から29日まで5日間、フレッシュ就労体験をさせていただきました。初日は、仕事場についてからの流れや仕事の手順等を丁寧に教えて頂きました。職員の皆さんは、一人一人とても優しく分からないことは丁寧に教えてくださいました。仕事内容は、洗い物やケーキ作り、野菜のカット等でした。

今回の5日間の就労体験は、様々な事を学ぶことができ、大変勉強になりました。また、将来の仕事について考える上でも貴重な体験となりました。

高等部教諭 佐藤 聖倫

今年度のフレッシュ就労体験ではホテル福島グリーンパレス様、就労継続支援A型事業所 Cafe 桑の実様のご協力を頂き、高等部1年生3名が5日間の実習を行いました。ホテル福島グリーンパレス様では客室等の清掃作業やベッドメイキング等の作業を、Cafe 桑の実様では野菜のカットや洗い物、ケーキや総菜作り等の調理作業を中心に実習させていただきました。自宅から直接出勤し、普段の学校生活とは全く異なる環境の中で様々なことを学ばせていただきましたが、生徒たちは特にコミュニケーションの大切さを感じ取り、これからの学校生活での新たな目標も持つことができたようでした。

今後は、今回の経験をこれからの現場実習や卒業後の進路選択に活かせるように、学習活動につなげていきたいと思っております。最後になりましたが、お忙しい中またコロナ禍で様々なご配慮が必要な中、実習を受け入れ熱心にご指導をくださいました事業所の皆様に感謝申し上げます。

今年度の進路指導を振り返って

小学部教諭 山口 哲也

6年生が自分の生活について考える授業に取り組みました。子ども達から出た「困る。」「うれしい。」「ありがとう。」などの言葉は、食事の準備や後片付け、洗濯に送迎など、何気なく過ごしている毎日が、誰かに支えられていることに気づいたからこそ聞くことができたのだと思います。そこから感じられた感謝の気持ちが、子どもたちの心の中で輝いていました。

学校生活で、この輝きを感じられる場面の一つは係活動だと思います。世の中には、いろいろな係（職業）があって成り立っています。例えば、私の場合は学校の先生係。その他いろいろな係（職業）があり、それぞれに支えられています。子どもたちは、学校生活の中で、一生懸命に係活動に取り組み、学級や学年、学校を支えています。このように、自分たちが行う係活動の意味を考えると、それは、自立の準備へのはじめの一步。小さな日常の積み重ねを大切に頑張ってもらいたいと思います。保健カードを出しに「行ってきます。」と、保健室へ向かう後ろ姿から、社会の扉を開ける音が聞こえてきました。

中学部教諭 大竹 和美

中学部で取り組んでいる総合的な学習の時間では、学校周辺の土地の特徴的な使用の仕方を果樹の栽培に関連付けて見学しながら理解したり、果樹園を訪れて実際に話を聞いたりすることを通して、生徒たちは仕事や労働に関することに思いを深めました。

作業学習では、感染症対策により、例年実施していた対面での作業製品販売会を実施せず、保護者に自分たちの作った製品のカタログを通しての注文販売を行いました。販売に向けての作業製品のカタログの作成や、注文票を確認しながらの袋詰めを丁寧に行うことができました。また、いただいた感想からお客さんの思いが伝わり、仕事に関する思いを新たにすることもできました。制限がある中で、自分から意見を出したり、普段とは違う販売方法をやり遂げたりすることで達成感を味わう機会となりました。

中学部の学習を通して培った、協力や協働の在り方、場に応じた言動、役割の理解、コミュニケーション力を生かし、卒業後も社会的自立に向けて、持てる力を発揮して主体的に活動して行ってほしいと思います。

高等部教諭 武田 吉英

4月からはいよいよ社会人となるみなさん。

高等部の3年間では、「職業」や「生活単元学習」「作業学習」「校内実習」「校外での産業現場等における実習」などで「働く」ことについて多くの時間を費やして学習に取り組んできました。また、社会人として働く上で必要な礼儀や人間関係についての学習もしてきました。大笹生支援学校でのこれらの学びと経験を活かし、今までの努力の積み重ねに自信を持ち、社会人として生活してほしいと思います。これまでお世話になった方々への感謝の気持ちを忘れずに、それぞれの職場や福祉事業所で、みなさんが活躍されることを期待しています。

保護者の皆様方には、今までたくさんの御支援と御協力をいただき、ありがとうございました。心から感謝申し上げます。

